

小学校の指導改善プラン（学校用）千代田区立お茶の水小学校

昨年度の「指導改善プラン」の検証（成果と課題）

指導改善プランを作成・実施することで、学習状況や課題を教職員間で共有し、共通の方向性をもって授業改善を進めることができた。また、記述活動や対話的な学び、ICT活用などを意識した実践が進み、児童の思考力・表現力の向上につながった。一方で、学力の個人差や基礎・基本の定着、記述力の向上など、継続的に取り組むべき課題も残った。今後は成果を生かしながら、個に応じた支援と指導の充実を図る必要がある。

全国学力・学習状況調査、達成度調査等及び児童の学習状況から見た成果と課題 ○成果 ▲課題

	第4学年	第5学年	第6学年
国語	○知識・技能、思考・判断・表現の両方とも全国・区平均を上回っている。 ▲全体的に聞くこと、漢字の書き、心情の読み取りに関する力が低く課題が見られる。	○全国平均を全体的に大きく上回っている。特に基礎問題はその傾向が強い。 ▲応用問題、記述式の問題が区の平均を下回っている。	○教科総合、基礎ともに区平均と概ね同様である。 ▲「読むこと」における人物像、心情変化の把握に課題がある。
社会	○知識・技能、思考・判断・表現の両方とも全国・区平均を上回っている。 ▲方角の読み取りや地図の読み取りに課題が見られる。	○区平均に対し記述式の問題は上回り、思考・判断・表現も平均と同等である。 ▲基礎問題が大きく下回っている。選択式や短答式の問題も同様である。	○基礎・応用ともに全国平均を上回っている。 ▲特徴を述べる記述式、資料の読み取りに課題がある。
算数	○概ね全国・区平均を上回っている。特に思考・判断・表現の領域がよい。 ▲図形・計測分野に課題がある。	○記述や応用問題で全国平均を大きく上回っている。 ▲概ね区平均を下回っている。特に数の分野や知識理解に課題がある。	○記述や応用問題で全国平均を大きく上回っている。 ▲割合・速さの分野で区平均をやや下回っている。
理科	○知識・技能、思考・判断・表現の両方とも全国・区平均を上回っている。 ▲思考・判断・表現の領域はA～C層とD層の差が他領域に比べて大きい。	○知識・技能、思考・判断・表現の両方とも全国平均を上回っている。 ▲概ね区平均を下回っている。特に記述や応用問題に課題がある。	○記述問題や思・判・表の領域について全国・区平均を上回っている。 ▲知識・理解領域について全国・区平均を下回っている。

授業改善の方針

国語	・「書くこと」や「読むこと」、基礎基本の力を応用して解く問題に課題が見られる。朝学習や授業の中で時間を設定し、児童の実態に合った課題を多く取り組むようにする。 ・作文は、具体的な書き方の指導、文章問題は様々な問題に取り組むようにし、自信につなげるようにする。
社会	・資料を正しく読み、基本的な用語を理解させるように働きかける必要がある。また、社会的事象に対して見方考え方を働かせるために、比較したり分類したり、総合して考えたりする活動を意図的に取り入れる。ICTを活用するなど資料の効果的な与え方や精選も図る。
算数	・領域に関係なく知識・技能面での課題が見られるため、100マス計算などの簡単な計算問題に取り組む。また単元の終わりに教科書の問題だけでなく、テストパークを活用することで練習量を増やすことで知識・技能の定着を図る。 ・学期末にベーシックドリル等を活用することで継続して既習事項を確認し、学習内容の定着につなげる。
理科	・観察・実験の結果について、根拠を明確にしながら表現する力を育成するため、科学的な用語の活用を促すとともに、観察や振り返りの場を設定し、知識・技能の定着につなげる。 ・児童の思考過程や実験結果を文章や図に表現し学級で共有することで、多様な考えを比較・検討しながら理解を深めるとともに、協働的に学ぶ態度や表現力の育成を図る。
音楽	・音楽を形づくっている要素に着目した表現例を示すとともに、思考ツールを効果的に活用し、児童が音楽的な根拠をもって考えを整理し、深められるようにする。 ・対話の目的や視点を明確にした協働的な学習を充実させるとともに、自らの学びや変容を振り返る場面を適切に設定し、学習した内容を次の音楽活動や生活に生かそうとする態度を育む。
図工	・粘り強く表現活動に取り組むことに課題があるため、活動の見通しがもてる手立てや振り返り活動を充実させ、試行錯誤を繰り返しながら主体的に自分の思いや考えを表現する力を育成する。 ・鑑賞活動では視点を明確に示した対話を取り入れ、互いの表現のよさや違いを認め合う機会を多く設定することで一人一人の感じ方や考え方を尊重し、多様な表現を認め合う態度を育む。
家庭	・調理、製作等の実践的・体験的な活動を重視した学習を通して、日常生活に必要な知識や技能を確実に身に付け、生活における自立の基礎を培う。児童同士で協働したり、意見を共有したりして、互いの考えを深めたり広げたりすることのできる活動を充実させる。
体育	・体力・運動能力調査の結果より、多くの学年で「ボール投げ」と「20mシャトルラン」において全国の平均値より下回る結果が見られた。そのため、「投げ方教室」の実施や効果的な教具の活用、体力向上の取り組み等を等を通して、投力と体力の向上を目指す。
外国語	・インプット、アウトプットの交互の学習活動により、知識・技能の習得を図る。単にゲームやリピートするなどのドリル的な学習とならないように、目的意識と相手意識のある言語活動を設定する。目標達成に向けた学習活動の中で児童相互によるフィードバックの時間や中間指導を設定し、児童が協働的な学びの中で自分の考えを再構築できるように働きかけ、思考力・判断力・表現力を高めていく。